

平成28年度第2回 旭市学校のあり方検討委員会会議録

1 期 日 平成28年11月21日（月） 開会 午後6時30分
閉会 午後8時17分

2 場 所 旭市役所海上支所3階会議室

3 出席者

会	長	伊藤	啓子
副	長	齊藤	勝弘
委	員	岩井	憲一
委	員	平野	一男
委	員	石橋	敬弘
委	員	加瀬	栄一
委	員	下埜	實
委	員	島田	昌信
委	員	佐瀬	史恵
委	員	高野	英之
委	員	山角	健一
委	員	向後	依明
委	員	平野	進
委	員	富田	貴子
委	員	向後	和保
委	員	小沼	加代
委	員	小関	三枝子

教 育 長	彗田	哲雄
庶 務 課 長	角田	和夫
学 校 教 育 課 長	石見	孝男
庶 務 課 副 課 長	多田	英子
学 校 教 育 課 副 課 長	仲條	義治
学 校 教 育 課 主 幹	橋村	昌樹
学 校 教 育 課 主 幹	鈴木	益実
庶 務 課 施 設 班 副 主 幹	来栖	慎一
庶 務 課 施 設 班 主 査	亘	隆男

4 開 会

・伊藤会長

皆さんこんばんは。足元のお悪い中、ご出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

ただいまから第2回旭市学校のあり方検討委員会を開催させていただきます。はじめに、開会に当たり、教育長よりご挨拶をお願いします。

5 教育長あいさつ

皆さんこんばんは。開会に当たりまして一言ご挨拶を申し上げます。

本日は公私共に大変お忙しい中を第2回旭市学校のあり方検討委員会にご出席をいただきまして大変ありがとうございます。1日が終わる頃で、お疲れのところとは思いますが、どうぞよろしくお願いいいたします。

さて、この会議も2回目となりまして、今回は、旭市の児童生徒の将来推計、要するに児童生徒数のことについて、そして文部科学省の小中学校の適正規模適正配置等に関する手引について事務局から説明をしてもらいます。そしてその後であります、小規模校、中規模校、大規模校の校長先生方から学校や児童生徒の様子をお聞きして、皆様方から率直なご意見をいただきたいと思っております。よろしくお願いいいたします。そして、皆様方が話し合う事によって課題を少しずつ焦点化、更には共有化して子どもたちにとって、どのような環境の学校がいいのか考えていけたらと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいいたします。また、このことについては、子どもたちのためですので、学校または家庭、地域などでも話題にさせていただけたらと思っておりますのでよろしくお願いいいたします。では、これから本日の会議もどうぞよろしくお願いいいたします。簡単ですが挨拶とさせていただきます。

6 検討事項

・伊藤会長

ありがとうございました。では検討事項に入りたいと思います。お手元の次第をご覧ください。最初に「会議次第の3. 検討事項の(1)から(2)のAまでは、事務局の説明があります。Iの「現職校長による各学校の利点と課題」については、4人の委員の方よりお話を伺って参ります。限られた時間の中で有意義な意見交換を行って頂くためにも、会議の運営に協力をお願いいたします。

質問は、最後にまとめてお伺いしますのでメモしておいていただきたいと思っております。また、本日は、最後の意見交換で、なるべくすべての委員に発言していただきたいと思っておりますので、あらかじめお願いしておきたいと思っております。よろしくお願いいいたします。

それでは、会議次第の3の検討事項の(1)「児童生徒数・学級数について」事務局から説明をお願いします。

・学校教育課鈴木主幹（管理主事）

私の方からは、児童生徒数の推移についてということで、説明させていただきます。1ページをご覧ください。まず本市では小学校15校と中学校5校が設置されております。児童生徒数の推移ですが、緩やかではあります、減少していく傾向にあります。個別に見ていきますと小学校では、富浦小、矢指小、鶴巻小、飯岡小、萬歳小、中学校では飯岡中が特に過去6年間で大きな減少傾向を示しております。鶴巻小に至っては、この6年間で約60%の減になっております。しかし、今後6年間を見てみますと富浦小、共和小、萬歳小などは、増加に転じる可能性もあります。次のページのグラフを見ていただきますと、小学校の児童数の推移となっておりますが、平成28年度～34年度にかけて緩やかな減少傾向でやや歯止めがかかる傾向が見て取れると思います。中学校では、大規模校の第二中の減少傾向が緩やかになりほぼ同じ減少率で推移していますが、海上中、第一中、干潟中のこれからの減少率は過去6年間よりも多くなります。ですがこれからの数年間は減少率の多かった世代の児童が入学するということが原因になっていると思います。その後は、小学校の児童数の減少傾向の縮小に伴い中学校の生徒数の減少傾向も、緩やかになっていくと思われまます。4ページをご覧ください。この資料は、国立社会保障人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」から抜粋したのですが、これから数十年のスパンで見えていきますと5歳から14歳の学齢人口は、平成27年の5,588人と平成52年の3,496人を比較しますと2,092人の減少となっております。減少傾向は緩やかではあります、今後も続くと思われまます。続きまして、5ページをご覧ください。学級数の推移についてです。学級編制基準について説明させていただきます。学級編制基準については、公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員の定数の標準に関する法律及び同施行令で定められております。小学校1年生につきましては、35人までは単学級ということです。ですから36人になりますと18人ずつの2学級になります。その他の学年につきましては、40人までは単学級、41人になりますと20人と21人の2学級になります。また、千葉県独自に弾力的に運用することが認められており、小学校2年生と中学校1年生は、35人で、その他の学年は38人となっております。人数がどんどん減っていきますと、複式学級という2学年一緒のクラスというようなこととなります。これは、参考に載せてありますのであとでご覧下さい。旭市では、よほどの社会的要因が無い限り、データ上では当分の間は、この複式学級にはならないとなっております。それから、小学校の学級数の標準については、学校教育法施行規則第41条に定められておまして、12学級以上18学級以下を標準とするとしております。ただし、地域の実態その他により特別の事情があるときはこの限りではないとなっております。次の6ページをご覧ください。旭市内で標準学級数である小学校は、嚶鳴小学校のみであります。この先6年間で多くの小学校が単学級に移行していきます。そ

の下の表は中学校です。中学校の場合は、今後6年間で、学年3学級以上維持している学校につきましても、減少して2学級になっていきます。ただ、このあとに、単学級になるというのは、かなり先になるのではないかと思います。

7ページをご覧ください。参考に小中学校の学級数の推移比較の表を掲載してございます。先ほど申し上げましたように、40人と41人では大きな違いがあります。千葉県の場合は38人と39人ですね。例えば、39人の学級が5クラスあって、それぞれ1人減ると一気に単学級になってしまいます。子どもの数の減少はそのまま学級数に結びつくわけではないですし、少し増えても学級数の増になるわけでもありません。参考までにご覧下さい。以上です。

・伊藤会長

ただいま、児童生徒数の推移並びに学級数の推移についての説明が終わりました。何か質問がありましたらお伺いします。

無いようですので、先に進めさせていただきます。

委員のみなさん、手引きをご用意ください。これから事務局から説明がありますが、参照ページをお示しいただけるとありがたいと思います。

・学校教育課橋村主幹（指導主事）

お手元にあります、第1回のあり方検討委員会の際に配付させていただきました「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」に基づきまして学校規模に伴う課題についてご説明させていただきたいと思います。手引きの1/47ページをお開きください。ここでは、学校規模の適正化が課題となる背景が述べられております。学校というのは、児童生徒が集団の中で、多様な考えにふれ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて一人一人の資質や能力を伸ばしていくという特質があり、そのためには一定の集団規模が確保されていることが望ましいとあります。この一定の集団規模というのが学級編制基準や学級数の標準に基づく1学級の人数であり、1校の学級数ということになります。この基準に満たない学校を小規模校、超えている学校を大規模校とし、小規模校や大規模校では通常よりも学校運営上の課題が顕在化しやすいので適正規模・適正配置を進めるように求めているのが、本手引きという事になります。それでは、小規模校や大規模校では、どのような学校運営上の課題が生じ易いのかを、手引きに基づいて確認させていただきたいと思います。6/47ページをご覧ください。学級数が少ないことによる学校運営上の課題について、かいつまんで紹介させていただきます。（6ページ①②及び7ページ⑤⑥⑧⑨⑩⑬を紹介する。）

これらの課題は1学級の人数が少なくなると、一層顕在化することが懸念さ

れているということです。さらに小規模校化が進み複式学級での指導が行われるようになりますと、7ページの中段にありますように5つの課題が生じることが指摘されております。それでは、続いて8ページをご覧ください。ここでは、小規模化に伴う教職員数が少なくなることによる課題が示されております。かいつまんで紹介させていただきます。(①②⑤⑧⑩⑪を紹介する。)これらの学校の小規模化に伴う学校運営上の課題が生じますと、児童生徒には、様々な影響を与えているとされています。8ページの下から9ページをご覧ください。(①②③⑤⑨を紹介する。)以上が小規模化に伴う課題です。続いて、大規模校並びに過大規模校の課題について説明をいたします。14ページをお開きください。一般的に大規模校には、次のような課題が生じる可能性があるとしてされています。(①～⑦について紹介する。)以上、学校が小規模校になった場合または、大規模校になった場合に顕在化しやすい一般的な課題について紹介しました。

・伊藤会長

ただいま、説明いただいた部分について、ご質問がありましたらお願いいたします。では、これも後ほど、みなさんからご意見をいただくときでもかまいませんのでお願いします。では、次の現職校長による各学校の利点と課題についてですが、現職の校長でおられる4人の委員からお話を伺いたいと思います。本日は、各校長先生に資料を作成頂いておりますので、お手元の資料をご覧ください。8ページからです。各校長先生方からは、5分程度でお願いしたいと思います。質問は、4校のお話がすべて終わってからお願いしたいと思います。最初に資料のとおりで、干潟小学校よりお願いします。中規模校の位置づけになるかと思っています。

・委員

資料の8ページをご覧ください。本校の規模ですが、通常の学級は2年生を除いて、学年は2学級です。計11学級です。特別支援学級が、3学級ございます。総児童数は、270人で男子が140人、女子が130人で男女比は極端ではありません。家庭数は204件です。児童数は、10年来、270人前後で大きな増減はありません。まず利点ですが、3つの項目に分けてあります。(1)児童に関する内容ですが、12学級から18学級が標準であるというお話であったと思いますが、干潟小は、標準に近い11学級ですので、2年生を除いてクラス替えが可能となります。これは、3年生と5年生になった年に行っております。児童は、人との関わり方、友達作りのスキルなどを経験によって学ぶことができます。ここには書いてありませんが、万が一、閉鎖的でお互いにあまり良くない影響を与えるようなグループができてしまった場合にも、クラス替えができるので、修正をして取り組むチャンスが生まれるというようなことも感じております。続いて(2)教職員に

関する内容ですけれども、1学級の人数が24名前後ですので学級担任の方は、一斉指導においても、グループ指導においても大変指導がしやすいと感じております。また、担任がペアですので、相談をしながら学年経営を行うことができしております。そのペアで、若い教員と、ベテランの教員が組んでいただくと、お互いに影響し合いながら取り組み、若い教員の育成にも効果を発揮しております。(3) 地域に関する内容ですが、規模に関係するか分かりませんが、区域外の就学児童も割合的には多いですが、区域外を除きまして徒歩で登下校できる範囲に学校があります。大体40分圏内だと思います。緊急時においても、学校と家庭との間の移動が自力でできます。以前も緊急に集団登下校等がありましたけれども、その場合でも、教員が家庭に徒歩で送っていくこともできます。万が一の時に自転車で見に行くこともできます。遠距離の登下校ですと、児童に負担を強いることにもなります。学校の規模とは関係ないですが、どの地域にどのように学校を位置づけたらいいのか、というところで書かせていただきました。学区内に出身の幼稚園と保育所があります。保幼小連携が非常にスムーズで、様々な行事で交流が持てます。体験型の連携が可能になっており、立地としてのメリットがあると思っております。各地区の住民が歩いて避難できる場所に学校が位置しており避難所としての役割も果たしております。次のページになります。

本校の課題ということで、1つ児童に関する内容を挙げさせていただきました。2学級編制となる人数で、ぎりぎりの学年があった場合は、常に数字に気をつけなければいけないというようなことがあります。1クラスが25名程度であれば、1～2名の転出入があっても、学級が年度途中で変わったりするとか、3年から4年に上がる時に心配をしなくてもいいと思っております。課題は、結果的に1つだけですが、と言うことは、指導しやすい、子どもたちが生活しやすい規模なのではないかと思っております。以上です。

・伊藤会長

続きまして、小規模校といえます中和小学校についてお願いいたします。

・委員

本校の規模ですが、現在児童数は、100名です。各学年とも1学級で通常学級は、6学級で特別支援学級は2学級で合計8学級です。1クラスの平均児童数は、16名、最大で24名、一番少ない学級で13名です。複式学級はありませんが、クラス替えができない学校規模です。職員数は13名です。本校の利点についてですが、1クラス平均16名ということで、一人一人の状況が的確に把握でき、きめ細かな支援、個に応じた指導が行われています。発表の機会を増やしたりすることで学習内容の定着も図られております。また、様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会や体験の場を多く与えることができ、一人一人の存在感が高められて資質の向上が図られております。安

全面でも目が行き届き事故の発生も低いです。また、きめ細かな指導を望み、市外都市部より、小規模校である本校に転入してきた児童もおります。本校の課題です。課題が課題にならないようにとすることで、工夫をしている状況ということをお知らせいたします。まずクラス替えができない事による人間関係が固定化してしまうということは、否めませんが、毎月実施している児童アンケートにおいて、学校は毎日楽しいと回答する児童は、100%の状況です。安心した人間関係の下、日々互いに認め合いながら学校生活を送ることができています。また、きめ細かな教育支援、教育相談により大きな生徒指導上の問題も起きておりません。全校縦割り班活動を登下校や清掃、学校行事で取り入れることで上級生、下級生のコミュニケーションの場を多くして人間関係が希薄化しないように心がけております。切磋琢磨する機会が無いのではないかと課題がありますが、学習目標が2学年にわたって示されている教科、例えば体育科、生活科、音楽科については、5、6年生や1、2年生といったように合同で行うことで教育効果が高まっています。例えば5、6年生で合同体育を行い、球技などは縦割りでチーム編成をすることで、マイナス面の抑制を図ることができています。音楽科の合唱についても、同じような取り組みをしています。他教科においても1年生が2年生に発表したり3年生が4年生に発表したりというような形で行っております。また、授業中に、考えがなかなか引き出せない場合についても、教師が多様な意見を出すなど工夫して支障が無いようにしております。またクラブの数が少なくなることもありますが、児童へのアンケートをきめ細かく行うことで、興味関心に応じた活動となるようにしています。職員数が少なくなることについてですが、やはり職員数が少なくなると校務分掌等も多くなり一人一人の職員の負担は多くなりますが、1学級の児童数が少ないということで、事務処理の負担は大分軽減されています。全校児童数も少ないことから担当としても状況に応じて柔軟に対応でき、行事等がスムーズに進行することができています。担任が一人で悩むことなく、全体で学級を支援できる体制を取っているということもあります。また、修学旅行については、今年度は萬歳小学校と合同で行うことで交流を深め、同時に保護者の負担を軽減するなどの工夫をして取り組んでいるところです。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございました。続いては、大規模校ということで第二中学校についてお願いいたします。

・委員

それでは資料の12ページをご覧ください。現在本校職員数は、67名で、生徒数は804名です。普通学級は23、特別支援学級は6で、合計29学級です。小学校5校から入ってまいりますので学区も当然広いわけでありま

す。本校は開校以来、管内屈指の大規模校として、時代とともに生徒数は減ってきてはおりますが、法令上の大規模校に位置付けられております。しかしながら、長年蓄積しました大規模校なりの学校経営や運営のノウハウ、伝統文化がありますので、急に大規模校になって困ったというようなことはありません。過去の延長上にあるということが前提でございます。13ページをご覧ください。本校の利点ですが、生徒数が多いことで学校行事や部活動などで、子どもたちに良い刺激が与えられていると考えています。子どもたちはいきいきとした学校生活を送っています。そして、教職員が多いということで、様々な個性や特徴を持った教職員がおりますので、その職員が生徒一人一人に関われることで教育効果を上げることができると考えています。地域やPTA活動ですが、多くの保護者や、地域の方々に応援していただくことで学習や行事が充実していると考えています。部活動についてですが、生徒数及び教員が多いので、数多く開設することができています。現在運動部が12部活、文化部が5部活です。他校や他地区では、生徒数の減少により単独チームが組めない状況もあります。他校と合同で1チームというようなこともあります。本校ではすべて、単独でチームが組めております。続きまして、本校の課題ですが、1学級の人数が多く、30人以上います。また、学年全体の生徒数が多いので、集団生活においても同学年の結びつきが中心となります。学年単位で動くことが多いです。異学年交流の機会が設定しにくいです。次に教職員に関することですが、教職員の一人当たりの受け持つ生徒数が多く、学年の職員も多いので、横の連携を密にすることなど、体制をしっかりと整えることが大切です。簡単に申しますと学校が3つあるような感じですので、それらをどのように調整しながら学校運営をしていくのか気を配っています。生徒数が多いので、当然ながら教員の事務量も多くなります。生徒につける時間の確保をするとともに、持ち帰りの仕事や休日出勤が増えていますので、教職員の健康管理、メンタルヘルスに気を配っております。また、学区が広いので地域やPTAの声を様々お聞きしますので、その方々の要望にお応えするための工夫が必要です。それから、先ほどの部活動は、たくさん開設できるのですが、専門的に指導できる教員が限られてきておりますので、生徒や保護者のニーズに応えられない面もございます。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございました。最後に飯岡中学校についてお願いします。

・委員

現在飯岡中学校は、生徒数245名で通常学級が、1学年2学級、2学年3学級、3学年3学級で、特別支援学級が2学級の合計10学級です。これまで、通常学級は、1学年3クラスを維持してきましたが、今年入学した1

年生から2学級となり、来年度も2学級ということで、来年度は、更に1学級減というような形になります。資料の14ページをご参考をお願いします。出身校につきましては、飯岡小学校、三川小学校がほぼ占めておりますが、一部区域外から就学している生徒もおります。通学方法は、自転車通学が199名、徒歩55名、自動車通学している生徒が31名でした。学区が東西に7.2km、南北に6kmほどでひし形に広がっておりますので、交通の手段が悪いことから、このような通学方法となっております。本校の生徒数を40～50年遡ってみますと、1965年が生徒数のピーク時代でした。生徒数が920人おりました通常学級数が21学級ということでかなり多かったようです。現在になりますと、生徒数が245人で、マイナス675人、学級数はマイナス13ということで、時代の流れに沿って徐々に減ってきております。先ほど、事務局からも説明がありましたが、今後5年間で更にその傾向が強まってくるということでございます。職員につきましては、県負担教職員が23名おりますが、50歳以上の職員が比較的多く、現在13名で割合は57%です。何年かすると入れ替わりの時期も迎えるわけですが、現在はやや活力不足といったことで影響が出ております。先ほど事務局から小規模校の特徴について説明がありましたが、本校もほぼ一致しております。資料の2に利点として9点ほど挙げさせていただきましたが、校長として特に感じているところは、一人ひとりに対する手厚い指導・支援が可能だということです。学習面においても、生徒指導面においても大変きめ細かな指導ができており、その成果も十分表れております。また、(3)にありますように異なる学年との交流が図りやすく、小回りも効きますので様々な成果が表れているところです。(7)に教職員が全校生徒の名前を覚えやすいとありますが、同時に、一人ひとりの心や身体の状態も把握しやすいため、予防や指導の面においても大きな成果が出ております。(8)にありますように、学校行事等における出場や発表の機会が多いということも特徴の一つです。多くの子どもたちが、多くの出番を得ることができており、自己肯定感を持つというところにつながっています。続いて課題としては、8点ほど挙げさせていただきました。一番気になるところは、中規模校や大規模校と比較すると活力が不足してしまうということです。様々な教育活動に対してそのような事を感じております。生徒数が少ないので、手厚く子どもたちの面倒が見ることができず、良い生徒も多いですが、その中で主体性などに課題を感じる場所があります。また、(2)では先ほどもありましたが、生徒同士の個性のぶつかり合い、切磋琢磨しながら成長していくというものが若干不足していると感じております。学校行事や学級対抗では、一人の子どもたちが出る機会が多いのですが、全体的な盛り上がりというところが若干欠けているのかなと感じます。15ページをお願いします。切実なのは、(4)です。生徒数の減少、顧問の高齢化、不足という事に伴って、部活動の存続が難しくなっています。保護者の方々も大変大きな期待を寄せている部活

動ですが、年度初めに運動部が9つ、文化部が3つありましたが、今年の夏をもって文化部が1つ閉部となりました。運動部も3年生が引退して単独で大会に出ることができない部が出てきております。サッカー部は、3年生が引退して9人になってしまい、他の学校との合同チームで新人大会は参加いたしました。女子バレーボール部も6人でベンチ入りギリギリで、なんらかの事情で1人でも欠席しますと、大会に出ることができなくなってしまいます。剣道部員は夏の段階では8人おりましたが、3年生が引退して2人になってしまい、さらに1人辞めて、部員は1人になってしまいました。また、吹奏楽部が年度初めは、24人いて、県大会にも出て力はあるのですが、3年生が引退してしまって14人ということで部活動の運営、存続が非常に厳しくなっているところです。また、(5)にありますように、教職員一人ひとりの校務分掌が非常に多くなってきておりますので、負担が増え、子どもたちに接する時間が減ってしまうことも大変危惧しているところです。(6)ですが、教員の数在今后減っていくため、免許所有者による専門的な授業が実施できなくなる可能性があります。実際に免許外で指導している教科もありますので、その傾向が強くなると更に増えていくのかなと思います。これらの事を踏まえると個人的には、中規模校のように各学年が4学級ずつ、12学級で生徒数300人程度が良いのではないかと思います。以上です。

・伊藤会長

ありがとうございました。それぞれの規模の学校の現状についてお話いただきました。このお話を聞きまして、何かご質問ありましたらお願いします。

それでは、このあと意見交換がございまして。お一人お一人2分程度でご意見をいただきたいと思っております。これまでの内容をまとめる時間も含めまして7時30分まで休憩したいと思います。よろしいでしょうか。

(10分間休憩)

・伊藤会長

では、会議を再開させていただきたいと思っております。意見交換に入りますが、検討事項の1、2と聞いてきたわけですが、お一人お一人のお考えもあろうかと思っておりますので、率直なお考えを言っていただければと思います。では、反時計回りで2分程度でお願いします。

・委員

適正配置等の手引きで事務局の方からご説明がありましたが、小規模校のデメリットという部分が多かったのではないかと思います。顕在化する課題ということで説明がありました。中和小学校では、学校経営の方法ですばら

しい運営をしているということがわかりました。小学校ならば小規模校でもすばらしい学校経営ができるのではないかと思います。ただ、小規模の小学校が集まって中学校に行くと、その中で切磋琢磨、コミュニケーション能力が育まれる部分があるのではないかと思います。大規模校のデメリットもある訳ですし、自分は、小規模校は、教科等の部分ではなく、個々の部分ですばらしいのではないかと思います。先生方と子どもたちが親子のようにふれあうことがすばらしい。これが将来地域を作る上でもかなりの力を持つのではないかと思います。特に地域が無くなるということは重要なことで、そこで育つ子供同士の繋がりにとっても、あるいは、そこに移り住んできた多くのお母さん方にとっても、そこが住みやすい地域になっていくかどうかに関わってくるため、小規模校の良さもあるということです。銚子市には過去に、保育所、小学校すべて一緒という学校がありました。この場合は、うまくいってればいいのですが、人間関係がまずくなつた場合には問題があります。そこは、先生方のご努力で解決できればいいのかと思います。以上です。

・委員

各学校のお話を伺いながら、地域というのが非常にクローズアップされた経営をされているのではないかと思います。また、そのご努力が実っているのではないかと感じました。ただ、子どもの数が確実に減っていることは事実です。私も小規模校に勤務した経験がございますので、利点だけでなくマイナスも正直結構あります。しかしそこをカバーしているのが先生方の献身的な努力であるということも言えると思います。保護者の皆さんのバックアップあつての話であります。今、お話があつたように少し歯車が狂い出すと、学級の崩壊に繋がる様な危険性もあります。ですが、小規模校では学級編制の仕様が無いという問題があります。今、色々な話を聞いて思ったのですが、かつては、明治時代に学区制が施行されて、村に学校が出来たわけです。村の学校は、その後昭和の合併があつたりして町の学校になりました。旭は市になりましたが、それでも明治に出来た村の学校を引き継いできたわけです。今回、旭市が1市3町で合併して、新しい旭市の学校をこれから、模索していかなければならない時期になった時に、児童数が減っていく、切磋琢磨をどう作っていくかなど色々なことを考えていったときに、明治時代から続いてきた村の学校のままで、はたしていいのか、という部分も問題提起としてあるのではないかと思います。小規模校のメリットもあるのですがデメリットもあり、献身的な先生方のご努力で何とか解決されてきているということもあります。そして中学校では、教科外を、通称「臨免」と言います。臨時免許状で授業をしてくださるのですが、決してそれは、理想ではないと思います。私は、中学1年の時に社会科の先生に英語を教えてもらいました。学年の中で1番英語の成績が悪かったクラスでした。ところが、その

先生の社会科の授業は、ものすごく楽しい授業でした。しかし、英語はその1年で取り戻すことはできなかったと思っています。色々と考えていくと、もう一度、明治からの良い面を引き継いできた村の学校的な良さを残しながらというのは、非常に難しいのかなと思います。人口減の厳しい銚子市は、中学校を3校から2校にする話が進んでいます。小学校はそのままといっても、小さな小学校から、いきなり大きな中学校へ行くというような問題もありますので、そのような問題をきちんとみんなで共有しながらこの会議を進めていく必要があるのではないかと感じたところです。

・委員

私は、意見というよりも、資料を提示してほしいのですが、第一中と第二中の校舎自体が非常に近い距離にあると思いますが、生徒がどちらに行くのかがどのような形になっているのか知りたいです。第一中の周りから自転車で第二中に行く生徒もいます。徒歩でも通える学校があるのに自転車で行くとなると交通事故に遭う可能性もあります。その辺が、どうなっているのか資料としていただきたいと思います。

・委員

私は区長をしています。学校のあり方というのを勘違いしていたところがあります。学校のあり方というと、子どもの数と教室の数を計算しているような感じです。私の地域は、子どもが減るといっても、結婚しない人が多いですから、増えようがないです。私には孫がいますが、女の子より男の子の方が言うことを聞きません。学校で色々勉強を教えてもらっていても悪い知恵が付いてしまいます。そう考えるとマンモス校より小規模校の方がいいのかなとも思います。豊畑小は、第一中と、第二中に行きますが、以前の話ですが、子どもが一中にいくとか二中に行くということではなく、親が反対していたんです。なぜかと言うと自分の中学の時のイメージがあるからだと思います。また、マンモス校で、子どもが多い理由は、駅に近いことでしょうか。駅から離れると人口も少なくなりますから。また、このあり方検討委員会とは違いますが、先生方も大変でしょうが、子どもたちをボランティアなどに参加させて指導してもらいたいです。

・委員

私は、飯岡地区です。区長をしております。先生方からの学校の利点・課題は大変参考になりました。今町内で子どもが本当に少ないです。私の時は、中学で1クラス50人の8クラスありましたが、今は先ほどの統計資料のとおりになっています。昔から、先生方の努力というのは、大変きめ細かい面と、大雑把な面とありました。今は、少人数になってきて、先生のきめ細かい指導になっています。私の子どもも、どうにか2クラスという時代で

したが、小学校に入学して、先生方全員に名前を覚えてもらえるような、すばらしい学校でした。先生方の努力というのを一番感じられました。子どもも素直に育ちました。少子化によって生徒数は徐々に減っていくと思いますが、親としては先生方に頼るしかありません。今のままでもいいですが、ご指導をお願いしたいです。

・委員

各先生からお話をお伺いしまして、各規模なりの工夫というものをお話いただき、大変参考になりました。ひとつ知りたいなと思ったことは、教員の数ということをおっしゃられましたが、免許の有無であるとかもありましたけれど、児童生徒数や学級の数については国の基準があるということですが、それに対する先生の数というのが、現場の先生方なりに学校運営に当たって、どのくらいがいいのか、今後勉強できたらいいと思います。それから、現場の先生なりに適正だと感じるような学校の規模というものが見えてくれば、現場を知らない我々にも目安となる学校のヒントとなり、多い少ないなどの判断をしていけるのかなと感じました。以上です。

・委員

私たち校長は、地域の実情に応じて学校経営をさせていただいております。学ぶ環境が作り出す子どもの課題というのはあるのですが、学校の経営方針といえますか、課題があるからということで取り上げて指導しているので、課題が課題にならないように努力をしているというのが良くわかりました。2点目は、小学校と中学校では、多少発達の段階が違うので関わり方ですとか、視野の広がりとかあるので単純に小中で固めないで、小学校、中学校の分けは必要なのかなと感じました。それと、単純に人数だけを考えていく場合には、通学区域の見直しや地域の枠組み自体をもう一度考えないといけないのかなと思いました。以上です。

・委員

長い間、行革の委員をやってきた立場からは、この旭市の財政であるとか税収の具合、人口の増減なども10年後ぐらいの単位で出ておりました。その数字を念頭に置いたのであれば、学校という箱物を減らしていかなければいけないと提言差し上げなければいけないかもしれません。私も小学校と中学校に子どもがお世話になっている立場でありまして、小学校は、鶴巻小学校ですので小規模校になります。中学校の方は、海上中学校でお世話になっております。先生方のお話を聞きますと小規模校のメリットというのが保護者にとって非常にありがたいものでありまして、なるべくいじってほしくないというのが率直な気持ちでございます。児童数の表を見ますと旭市は非常に緩やかな推移になっていると思います。今すぐに統廃合というのではな

くて、学区割りなどで、うまくバランスをとっていただければ十分対応していけるのではないかと思いました。以上です。

・委員

私は、保護者代表なので、その目線で話をさせていただきます。私の地区は、小学校は古城小学校で中学校は干潟中学校になります。資料でも、児童数、生徒数が一番少ない地区です。小学校の方ですが、率直な意見としては、残してほしいです。複式学級になってしまうようだと問題があると思いますが、維持できる間は、地区のコミュニティも兼ねていますので限界まで残してほしいというのが、保護者としての意見です。中学校では、やはり干潟中が、一番生徒数が少ないということで、先生も少ないし部活も少ないです。自分のやりたい部活がないということで八日市場一中に行ってしまう子もいますので、残念です。中学校に関しては、統廃合といますか、学校を大きくして、先生方の数も増やして充実した学校生活を送れるようにしたほうがいいのかと思います。

・委員

途中退席していますので、全部話を聞けなかったですが、小学校は、飯岡小で、中学校は飯岡中ですが、小学校の方は、ぎりぎり1クラスになっている学年でして、参観に行ってみた時は確かにぎゅうぎゅうで見づらいです。保護者が入る場所が無いような状態というものがあります。娘が3年生の時は、先生が2人付いたのですが、それならば、教室も余っているので2クラスで見てもらったほうが良かったのではないかというのが親としての素直な意見です。中学生の娘に関しては、人数が徐々に減っているということで部活で人数的に必要な部活になりますと活気が足りなくなっているかなというのはすごく感じます。入った時点で選手になれてしまう部活であったり、チームプレーの部活でも人数がいないので、ユニフォームが着れてしまうということがあり、向上心があまり無いのかなと思います。私自身、中学校では部活動を占める範囲が多く、同年代の人の半分以上がそうだったと思いますが、部活動で学ぶことが多く、大事かなと思っています。地元の私が通っていた小学校が統廃合し、一気に70人前後の学校が3校集まって新しい学校を建てて、私の姪っ子はそこへスクールバスで通っています。でも当時、私が小学校1～2年生の時、統廃合の話があって、保護者からの反対がものすごく、一度その話はなくなっている経験をしています。私は常に70人を切っている小学校で育っていて、地域の方が参加して運動会もするし、修学旅行も親子で行ったぐらいで、とてもアットホームで、地域との密な繋がりがありました。

小規模校を一言で悪いとは言い切れないし、利点はすごくあると思っています。ただ自分は今役員をやっているのでも、人数が減れば減った分、保護者

が毎年役員をやらなければならない状態になっている話を聞いています。私も子供が3人いて、何かしら役員を常にやり続けなければならないです。子供や先生方、地域のためという気持ちもあり役員をやっていますが、みんながみんな同じ気持ちではないし、役員を決めることの大変さを毎年感じています。また、こういう場に出席する時も、子供を置いてきているので、心苦しくなりつつもあるので、人数が少なければ、負担が大きくなると思います。学校規模については、大きくても、小さくても、それぞれ利点があるので、今の段階で、こっちがいい、あっちがいいとか、統廃合したほうがよいとか、はっきりと意見を述べることは難しいです。

・委員

うちの地区の学校は小規模校になってしまうわけですが、各校長先生の話聞いて、いろいろなメリット、デメリットがあり参考になりました。

自分の中では、話はずれるのですが、子供をどう増やすかが一番大事だと思います。自分の地元の周りの同級生、先輩、後輩についても結婚していない人が多いです。どう結婚させればよいかというと、市からお祝いをもらえると子供を作りやすい環境になるのかなと思います。ましてや今の若い20代の人達は給料もそんなにもらってはいないと思います。そうすると子供を増やすためには市からの経済的な援助制度が大事なのかと思います。

・委員

小規模校、大規模校のそれぞれのメリット、デメリット、また先生方に工夫してもらっていることがよく分かりました。

私も保護者の立場としては、小規模校、大規模校どちらにも良いところ、悪いところがあり、自分の中でも答えは出ていません。今日の話をつかかった中で、保護者の立場として思ったのは、中学校で専門の免許を持っていない先生が、違う教科を教えることがあると初めて知ったので、そういう場合、どんな先生が担当するのか不安というか、知りたいところだと思いました。

・委員

本日、遅れてきて、話の流れを把握できていない点もありますが、この資料を見る限り、年々子供たちが減少しているのが分かりました。先ほども校長先生の話聞いて、3年生が部活動を引退して剣道部が1名、バレー部が6名と、子供たちからしたら、かわいそうというか、残念というのが率直な意見です。

私は旭二中で、自分の時は学年で411人いて、全校で1200人ぐらいいた学校でした。運動会などでは、盛り上がりがあり確かに良い面がありました。反面、デメリットというか1学年の半分以上の顔が分からないという

か、しゃべったことがないというのが実際のところですよ。ですので、大きければいいということでもないと思いますし、自分の子供は矢指小で6年生と2年生の子供がいますが、6年生の方は、全校生徒全部の名前が読めるような感じなので、それもいいのかなと思いました。

・委員

先ほど説明の中で個人的に学年4クラス、300人位が理想という話をさせていただきましたが、あくまで理想でありまして、現状の1学年2クラス、あるいは3クラスにおいても、学校の努力によって充実した活力ある学校教育が十分できます。ただ、先ほどとの重複にもなりますが、部活動の面で若干、今後さまざまな工夫をしていかなくてはいけないと思われまます。やはり様々な保護者の方の期待、子供の願いというのがありまして、上手くなりたい、あるいは部活動で仲間をつくりたい、健康づくりをしっかりと行いたい等、様々な思いがあって部活動に入ってきます。当然、学校現場は知・徳・体バランスのとれた教育をするべきであって、小学校も、中学校も文武両道というのは、どの学校も目指しているところだと思います。そんな中で、今後更なる工夫が必要なのかなと感じています。

本校は現在、生徒数245名の規模で、部活動が11、運動部が9つ、文化部が2つあることをお伝えしました。昨年度は銚子の中学校長をしておりましたが、その学校は生徒数が123名で、運動部が5つ、文化部が1つ、現在勤務している学校の約半分の規模ですが、割合としてはほぼ同様です。昨年勤務校でも、どうにか夏の大会まではよかったのですが、3年生が引退した後に野球部が大会に出るに当たって3つの学校が合同チームを作らないと大会に出られないという実際の話がありました。バスケットボールについても、匝瑳市に中学校と合同チームを作り大会に出ることがありました。やはり子供は、日頃の活動の成果をそういった大会で確認したいということになりますし、頑張っている姿を親御さんも応援したいなど、いろいろありますが、そういった活動を保証するということがだんだん厳しくなってきました。現状の2学級ぐらいまでで何とか数年は治まりますが、更に進んで行くと、当然この辺の期待に応えることができなくなってしまうというのが実際問題としてあります。

この辺を今後、中学校では特に工夫をして学校を運営していく必要があると感じております。

・委員

私は今、旭二中に勤めております。

教員は定期異動がありますので、異動によってどこの学校に行くか分からないわけです。

私は小規模校の経験が無いので中規模校、大規模校の経験からお話をさせ

ていただいています。また、手引きに示されている大規模校の課題については、改めて書かれています。それは実体験として持っていることですので、それを克服するよう頑張っているところです。

我々は与えられたところでベストを尽くすしかないということです。また地域の方はその地域で育っておりますので、小規模校の学区、大規模校の学区、それぞれの思いがあるでしょうし、こういう場でそれぞれ、ご意見を出し合うということは、非常に相互理解が図れるので良いのかなと思いました。

ここで改めて大規模校の立場でいいますと、学級数の規模を適正化する文脈で書かれていると思うのですが、私は学級数の規模を適正化するよりも、1学級当りの生徒数を適正化した方が教育効果が上がると思っています。

うちの学校が、例えば30人で8学級あるところを20人で12学級にしたとすると、ものすごい大規模校になりますが、1学級当りの生徒数が減りますので教育効果が上がると思います。それは財政的に無理ということは承知しておりますので、結論としては与えられた環境で頑張ると、そういうことになります。

・委員

私は小学校の小規模校の代表ということで、出席させていただいておりますので、その立場でもう少し話を加えさせていただきますと、小規模校にも2つあるのではないかと、先ほど委員さんがおっしゃられた複式学級がある学校と無い学校ではだいぶ状況が違うのではないかと思います。私自身、複式学級を担任したことはないのですが、一つの学級で二つの学年をひとりの教員が決められた望ましい学習の流れに沿って授業を進めていくというのは、とても大変なのではと思います。

複式学級が一つであれば、何とか学校の職員で複式にならないような対応もできるのですが、二つとなった場合には、だいぶ厳しい状況になるのかなと感じています。そういう条件にならないような学校づくりというものを考えていく必要があるのかなと感じています。

・伊藤会長

皆様よりいろいろ貴重な意見をいただきました。

事務局への要望もありました。例えば一中、二中の学区割りはどうなっているのか資料が欲しいですとか。

標準があるのでしょうか、先生方の立場でこの職員の配置数をどう思っているのか。

現状として学校の数、施設の数減らさなくてはいけない状況にあるのですが、子供たちの教育環境を第一に考え検討していかなければいけないなど、たくさんのお話がありました。

ここで確認しておきたいと思います。前回の資料の中に今後のスケジュールについて書かれていましたが、前回資料の7ページになります。そこには私たち委員の課題として、最終的に全6回の会議があるんですが、最終回の平成30年2月には提言書をまとめなければいけません。それまでに何をしなければいけないかということをごここで改めて確認をしておいて、今日いただいたご意見をまたその中でふれていくになると思いますが、それを確認したいと思います。7ページのところですけれど、現状の課題について私たちは共通理解をしましょうと。本日、4校の校長からそれぞれの規模に応じたいろいろな利点や課題についてお話をいただきました。ですので、今日、現状と課題についてのさわりになります、ふれることができたのかなと思います。このあと更に私たちが抱える、それぞれの規模の学校の現状と課題について、もっと深めていくことと、それから二つ目に書かれているのが、学校の適正規模・適正配置ということで、これが最終的に提言に盛り込まなければいけないことだと思います。私たちは学校の規模、どの程度が適正と考えるのか、どこにどういったふうに学校があったらよいと思われるのかということ、それぞれ、今日皆さんからいただいたご意見をもう少し深めながらやっていくことが、私たちに課せられたことなのかなと思いました。

ここで一通り皆さんからご意見いただいたわけですが、他の皆さんのご意見を伺って、確認しておきたいこと、新たに質問しておきたいこと、その他ご意見を伺っておいた方がよいこと等ありましたら、お願いしたいと思います。今後のことについてでもいいですし、今日の内容でもかまいません。

委員より、一中、二中の学区割がどうなっているかという話がありました。それは後で資料を提出してほしいということによろしいでしょうか。

・委員

後でいいです。どういった形で一中へ行くのか、二中へ行くのか知りたいということです。父兄さんの意見にもよると聞いたので。

・伊藤会長

それでは、これからの会議でその点をふれてもらえば、良いですか。

・委員

はい。

・委員

元々、二中は、豊畑小と共和小でつくったものですよね。ところが旭の人が一中へ行かないで、みんな二中へ来てしまったと。それで一中へ行くのか二中へ行くのかでもめることもあったようです。

・伊藤会長

それについても、後の会議でよろしいでしょうか。

・委員

はい。後でいいです。

・伊藤会長

それから、先生方は適正基準、適正規模というものをどう考えているのかというご質問がありました。委員、この質問に付け足しはございますか。

・委員

いえ。その内容でお話ができたらと思います。

・伊藤会長

委員は、今までの他の委員の経験から、箱物を減らさなければならない立場にあったということですが、なかなか学校については、子供たちにとって何が良いかということを見ると、それもどうなのかということによろしいでしょうか。

・委員

はい。大丈夫です。

・伊藤会長

その他に何か、付け足しはございますか。それでは、次回会議では、当初予定にもありますように、学校の適正規模についてもう一度、子供たちにとってどういった規模がよいのか、ということテーマとして、事務局と調整しながら進めていくこととしたいと思いますが、よろしいでしょうか。学校規模は子供たちにとってどういった規模が望ましいかということ、子供たち中心にということ。いろいろ財政のことなどあると思いますが、まずは子供たちにとってどうかということを進めていくということで、よろしいでしょうか。それでは、これで検討事項については終了といたします。この後、事務局より事務連絡があります。よろしく申し上げます。

7 その他

・庶務課亘主査

事務局からの連絡です。今回、第2回の検討委員会に先立ちまして、委員の皆様には、お忙しい中、アンケートにご協力いただきました。アンケートの中で提示してほしい資料、その他のご意見・ご質問等の結果を取りまとめたものを本日、資料としてご用意させていただきました。たくさんのご回答ありがとうございました。このアンケートによる資料提供につきましては、

提供が難しいものもあるかとは思いますが、次回会議以降、会議のテーマに併せたタイミングでご提供していきたいと考えております。よろしくお願ひします。

・伊藤会長

では最後となりますが、次回以降について、何かご質問、ございましたらお願いいたします。では次回会議は2月開催予定となりますので、よろしくお願ひします。

8 閉 会